

【中村名大教授ら 安全な横断支援 注意喚起システム開発】

安全な横断支援

注意喚起システム開発

中村名大教授ら

名古屋大学院工学研究科 注意」の文字を表示し、ドライ
の中村英樹教授とキクテック バーに注意を喚起する。

(名古屋市内南区)、オリエン 長野県飯田市、高知市、高
タルコンサルタンツは、横断 知県須崎市の交差点3カ所に
歩行者の安全な横断を支援す 試験導入して実験した結果、
る「横断者感知式注意喚起シ ステム」を共同開発した。

同システムは、横断歩道の 13年12月から須崎市の国道
両端に設置した人感センサー に実導入された。

埋め込んだ道路鋲を点滅発光 5日には、名大野依記念学
させるとともに、LED(発光 術交流館(名古屋千種区)
ダイオード)表示板に「横断者 テック社長、野崎秀則オリエ

左から新美社長、中村教授、野崎社長



「大きさにもよる 横断歩道▽信号交差点の横断
が、機材のみで3 歩道(右左折時)▽左折導流
00万円程度」な 路の横断歩道(無信号の箇所)
どと説明した。 ————などへの適用が想定され

野崎社長は、試 後は3者で協力して、適所に
験導入でシステム おける効果的な適用方法を検
ところ、「ドライ 証し、システムの導入を進め
バーが歩行者を発 る」と述べた。

ンタルコンサルタンツ社長が が平均値で7.5手前(16.5か
記者会見を開催。 ら23.5)になった」ことや、
新美社長は、「常時あらゆる システムの導入により6割を
る方向にむやみに警告するの 超える歩行者から「安心感が
ではなく、必要なとき、必要 高まった」とのアンケート結
な側だけに注意を促すのがポ 果を得たことなどを報告し
イント」とシステムの特徴を た。

紹介。導入コストについては 同システムは、▽無信号の
同システムは、▽無信号の が重要な課題となっている。